

黒潮さんちよく新聞

第1号

発行所 高知大学
高知市曙町二丁目
5番1号
088-844-0111
〒780-8520

みなさんこんにちは！私たちは、高知県黒潮町の土佐佐賀産直出荷組合で実習を行っています。今回は、社長である浜町明恵さんの想いを他の学生に伝えるためにこの新聞を発行させていただきます。他にも、実習概要や黒潮町の良い所紹介なども掲載しているので、ぜひ最後まで読んでみてくださいね！

川上千裕



信頼、そして消費者を考える

黒潮町では「商品を作る」ということに重点を置いて実習を行った。実際に土佐佐賀産直出荷組合以下「さんちよく」の現場で従業員の方と一緒に作業をさせていただいたり、原料の魚が水揚げされる釣漁港の競りを見学しに行ったりするなど、実際に触れて商品を作る現場を知ることができた。どの職場でも多くの人が関わり合い、その中で自分の仕事を全うする姿を見た。またその中で信頼が大切だとさんちよくの浜町さんが話していた。浜町さんは釣漁港の競りに「30分参加している」と言っていた。また、その他の参加者も電話でやり取りをしている場面を漁港見学で見ることができた。これは対面だけでなく品質等を確認するための信用できる関係が構築されているからこそできることである。地域で仕事をすることで信頼関係があるからこそできることがあると感じた。

実際に触れて考えること以外にも商品製造の際に欠かせない商品仕様書の作り方や衛生管理について教えていただいた。商品を考える上で事務的な側面も欠かすことができない要素である。物事の流れをしっかりと伝えるためには具体的に書類を出すことが大切である。これこそ商品を作るという点ではないだろうか。商品がどのようなものか誰が見ても分かるようにするというのはとても難しいことである。しかしその手順を経てこそ商品と言えるのではないかと感じた。

さんちよくでの実習では商品開発の現場と事務の両面を見ることができた。そして、自分たちで商品を作るということも行っている。試行錯誤しつつの物を作り、仕様書という形も整えることは非常に難しいことである。また自分の商品の価値や使い方を考えることも難しく、自分たちがまだユーザーを見ることができていないことを痛感している。今後とも考え続け少しでも良い物を作ることで今回お世話になったさんちよくの皆さんに学んだことをお返しできるのではないかと考えている。

柴垣太貴

「知ってほしい、発信してほしい」



松田柚紀

「知ってほしい」。これが浜町さんの何度も繰り返していた言葉。さんちよくがどのような取り組みをしているのか、生産者がどのような苦労をしているのか。値段を見ただけで高いと言ったり、ほかの商品と比べて高いということも簡単だけれども、値段設定の裏側を知ってほしい。その価格に見合うこだわりや手間がかけられている。浜町さんには、値段だけで判断しない人を増やしたいという想いがある。

『地域協働企画立案実習』での学生による商品開発では、学生にしか思い浮かばないような斬新なアイデアを期待している。しかし、利益は求めていないという。地域協働学部は地域のリーダーとなる人材の育成を目指している。その学びを活かし、「誰か一人でも地域のリーダーとして黒潮町で働いてほしい」と話していた。また、「こんな田舎でも世界に発信できることがある」「地域の頑張りを大学へ帰って発信してもらいたい」という想いがある。現在受講している『商品開発基礎演習』になぞらえて、アイデアマンの浜町さんを超える、学生だからこそ思いつく商品を開発できたらと思う。

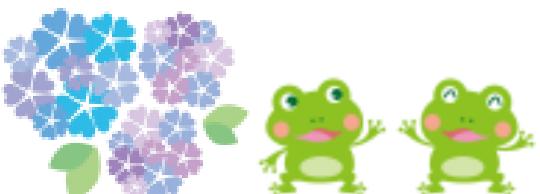
森本麗水

安心して食べさせられるものを
生まれ育った土佐佐賀を元気にしたい、漁師しか食べられない、新鮮でおいしい小さな魚たちを全国に届けたいという思いから、平成十年に設立された(株)土佐佐賀産直出荷組合。代表取締役社長である浜町明恵さんは「人を大切に」「経営理念とし、家族に安心して食べさせられるものを基本に、化学調味料、保存料不使用にこだわり、できる限り高知県産、国産の原料を使用したものを食卓へと届けている。家庭を持つ女性社員が多い中、働きやすい職場作りを目指し、近年はより良い商品作りの為にスタッフ育成にも力を入れているようだ。漁師町にある「さんちよく」は、周辺の市場から仕入れた新鮮な魚をおいしいうちに届けたいという浜町さんやスタッフさんの思いを込めて今日も羽ばたいている。

約2万人もの観光客

さんちよく新聞では、黒潮町の素敵なところも紹介していこうと思っている。5月のGWは黒潮町に約2万人もの観光客が訪れる。彼らのお目当ては言わずと知れた「Tシャツアート展」。全国から集まったたくさんさんのTシャツが、潮風に煽られひらひらする。そのTシャツとともに味わえる、雄大な全長約4kmの砂浜や、海を眺めながら食べられる黒潮グルメなども人気だ。このイベントを企画・運営しているのが、「NPO法人砂浜美術館(理事長 村上健太郎さん平成十五年NPO法人化)」。私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です」をコンセプトに、自分たちの周りにもあるものに光を当て、それを生かす活動をしている。砂浜美術館の活動の中でTシャツアート展は一番有名な活動だが、砂浜美術館はそれだけではなく、まちの観光案内所の役割も担っている。イベント運営や黒潮町というまちを全国に発信する広報まで、幅広く活動する砂浜美術館は、美術館の枠を超えた活動を行っている。最近ではケーブルテレビの制作や防災教育にも力を入れており、地域になくはない組織となっている。

下村海登



皆さん黒潮さんちよく新聞はいかがでしたか。少しでも黒潮町やさんちよくのことを知っていたら嬉しいです。これからも町の魅力や生産者の想いを伝えていきます。次号もよろしくお願います。

山本絵理